

おわりに

豊田講堂は二〇一二（平成二四）年、第一三回公共建築賞（一般社団法人公共建築協会）において、公共建築賞・特別賞を受賞しました。同賞は、建築として企画・設計・施工が優れていること、地域社会への貢献が著しく、文化性が高いこと、施設管理、保全が良好に行われていること、という三つの視点から公共建築物を評価するものです。

受賞理由は、指定文化財であるとともにモダニズム建築の代表作である豊田講堂を、市民交流の拠点として増築・改修し、改修後は講習会、学会、市民フォーラムなど多様なプログラムに利用され、利用率も大幅に向上しており、今後もこの施設を永く使っていこうとする大学の姿勢が感じられ、公共建築の一つのあり方を示したものである、されています。

BELCA賞もそうでしたが、建築物としての意匠だけではなく、建築後の歴史、そして名古屋大学が示したその未来像も合わせて評価されているのです。その意味では、名古屋大学は、今まさに豊田講堂の価値を創造しているとも言え、我々の責任は大きなものがあります。

本書では、豊田講堂の沿革や名古屋大学における存在意義などについて述べてきました。名

帝大創立時からの「約束」が戦後もなかなか実現しない状況にあつて、もしトヨタ自動車工業による「約束」の継承がなかったならば、おそらく現在ののような東山キャンパス風景は存在していただろうと思われます。

本書を終えるにあたつて、一九六〇（昭和三五）年五月九日の豊田講堂完成式典における、名古屋大学の松坂佐一総長によるあいさつの一部を引用しておきます。今日、豊田講堂は、竣工後五六年の歳月を経て、その存在が当然のこととして受け止められています。本書を通じて、名古屋大学の中心としての、またシンボルとしての大学講堂の存在を、これまで以上に再認識していただくことができれば幸いです。

大学は、学部や研究所の単なる連合体ではなく、そこで研究される諸科学の統一をその理念とするものでありますが、大学における講堂は、まさに、そのシンボルともいうべきものであります。名古屋大学が東山地区に集結するに当つて早くもここに、トヨタ自動車工業株式会社の御寄贈によつてこのような立派な講堂が竣工しましたことは、真に名古屋大学に心ができたように感じて、喜びに耐えませぬ。

（『日刊建設通信』一九六〇年五月二一日付）

引用文献・主要参考文献

- 名古屋大学史編集委員会編『名古屋大学五十年史』通史一（名古屋大学、一九九五年）
 名古屋大学史編集委員会編『名古屋大学五十年史』通史二（名古屋大学、一九九五年）
 須川義弘『平生を顧みる』（私家版、一九八二年）
 神谷智『名古屋大学 キャンパスの歴史―学部編』（名大史ブックレット2、二〇〇一年）
 堀田典裕・木方十根『豊田講堂と古川図書館―名古屋大学の寄付建物―』（名大史ブックレット4、二〇〇一年）
 『名古屋大学 豊田講堂 一九六〇』（名古屋大学、一九六〇年）
 『豊田講堂完成式典綴 昭和三五、五、九』（名古屋大学文書資料室所蔵）
 『日刊建設通信』（一九六〇年五月一一付）
 『TOYODA AUDITORIUM』（名古屋大学豊田講堂改修竣工式・同竣工ホームカミングデイ配布パンフレット、二〇〇八年二月二日）
 『名大トピックス』第一六四号（二〇〇七年一月）、第一七三号（同年一〇月）、第一七七号（二〇〇八年二月）、同一七八号（同年三月）
 「ちよつと名大史」（名古屋大学文書資料室ホームページ（<http://nua.jimu.nagoya-u.ac.jp/>）、初掲載は『名大トピックス』各号）。
 一般社団法人公共建築協会ホームページ（<http://www.pbaweb.jp/>）

著者略歴

山口 拓史（やまぐちたくじ）

一九六二年 兵庫県神戸市生まれ
一九九四年 名古屋大学大学院教育学
研究科博士課程（後期課程）単位取得
満期退学 教育学修士
現在 愛知学院大学教養部准教授
専攻 高等教育史、アーカイブズ学

堀田 慎一郎（ほったしんいちろう）

一九六九年 愛知県豊橋市生まれ
二〇〇〇年 名古屋大学大学院文学研
究科博士課程（後期課程）修了 歴史
学博士
現在 名古屋大学文学書資料室特任
助教
専攻 日本近代史、アーカイブズ学

【執筆担当】

一～四：山口、六：堀田、
はじめに・五・おわりに：山口・堀田

名大史ブックレット9

豊田講堂

—— Toyoda Auditorium ——

二〇〇四年九月三〇日 第一版発行
二〇一〇年三月一五日 第二版発行
二〇一六年九月三〇日 第三版発行

著者 山口 拓史

堀田 慎一郎

編集発行 名古屋大学文学書資料室

〒464-8601 名古屋市千種区不老町
電話 〇五二（七八九）二〇四六

印刷所 株式会社 クイックス

〒456-0004 名古屋市熱田区桜田町一九一〇
電話 〇五二（八七一）九一九〇

名大史ブックレット

シリーズ 既刊本

-
- ① これまでの大学院・これからの大学院
山口 拓史 2000年12月刊
-
- ② 名古屋大学 キャンパスの歴史Ⅰ（学部編）
神谷 智 2001年2月刊
-
- ③ 名古屋大学 スポーツの歩み
高橋 義雄 2001年3月刊
-
- ④ 豊田講堂と古川図書館—名古屋大学の寄付建物—
堀田典裕・木方十根 2001年12月刊
-
- ⑤ 名古屋大学最初の外国人教師—ヨングハンス先生とローレッツ先生—
加藤 鉦治 2002年3月刊
-
- ⑥ 草創期の名古屋大学と初代総長渋沢元治
神谷 智 2003年3月刊
-
- ⑦ 名大祭—四〇年のあゆみ—
山口 拓史 2003年3月刊
-
- ⑧ 岡崎高等師範学校—新制名古屋大学の包括学校③—
山口 拓史 2004年3月刊
-
- ⑨ 豊田講堂—*Toyoda Auditorium*—
山口 拓史・堀田慎一郎 2016年9月第三版刊
-
- ⑩ 名古屋高等商業学校—新制名古屋大学の包括学校②—
堀田慎一郎 2005年3月刊
-
- ⑪ 農学部の誕生と安城キャンパス—学部の誕生と草創期①—
堀田慎一郎 2006年3月刊
-
- ⑫ 第八高等学校—新制名古屋大学の包括学校①—
山口 拓史 2007年3月刊
-
- ⑬ 名古屋大学 歴代総長略伝—名大をひきいた人びと—
堀田慎一郎 2009年3月刊
-
- ⑭ 名大祭—五〇年のあゆみ—
山口 拓史・堀田慎一郎 2011年3月刊
-



表紙写真：豊田講堂とグリーンベルト（2008年）

裏表紙写真：ライトアップされた豊田講堂（2008年）